

# ひきこもり支援～地域参加支援・就労支援までの取組み

姫路市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム交流会

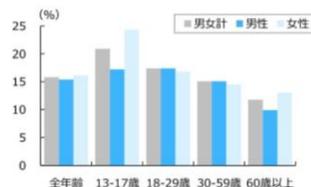
認定NPO法人コムサロン21 副理事長 谷口 慎一郎

# 世界保健機構（WHO）が初の孤独・孤立対策のレポートを発表

## 世界保健機関(WHO)が初の孤独・孤立対策のレポートを発表 — 孤独・孤立を個人だけの問題ではなく、公衆衛生上の課題として位置づけ —

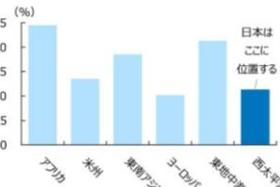
- WHO憲章において、健康とは単に病気でないということだけでなく、肉体的・精神的・社会的に満たされている状態と定義されているが、政策の現場では、これまで健康の社会的側面は軽視される傾向。しかし孤独・孤立が、病気、早死、精神保健の悪化をもたらすことのエビデンスが蓄積され、さらに個人の健康にとまらず社会全体に悪影響を及ぼすことから、公衆衛生上の課題として捉えられるように。このためWHOでは孤独・孤立対策の委員会を立ち上げ、2025年6月30日に報告書『孤独から社会的つながりへ』(From Loneliness to Social Connections) を発表。
- 報告書によると、世界全体で人口の15.8%が孤独を抱えており、若年層ほど高い割合。17歳以下と60歳以上は女性、18～59歳は男性の方が孤独を抱えている割合が高い。アフリカと東地中海地域(中近東など)が孤独を抱えている割合が高く、欧州は低い(図表1、2)。
- 孤独・孤立は、健康面では心疾患や糖尿病の増加、認知症の発症、うつ病のリスクを高める恐れ。さらに、学業成績の低下、就業継続困難などから、貧困にもつながり、経済的には医療費や労働生産性の低下などのかたちで、社会保障財政や雇用主におけるコスト負担に(図表3)。
- 近年、先進国を中心に孤独・孤立対策の戦略やアクションプランを策定。わが国は唯一、法律を制定(図表4)。広範にわたりがちな孤独・孤立対策に適切に資源を投入するため、諸外国の取り組みをベンチマークとして政策効果を高めていくことが重要。

(図表1) 男女・年齢別 孤独を抱えている人の割合



(資料)WHO[2025] From Loneliness to Social Connections をもとに作成

(図表2) 地域別 孤独を抱えている人の割合



(資料)WHO[2025] From Loneliness to Social Connections をもとに作成

(注)日本はWHOの地域区分では「西太平洋」に含まれる

(図表3) 孤独・孤立がもたらすコスト

英国	孤独は雇用主に年間25億ポンド(≈4800億円)のコスト
英国	深刻な孤独は一人年間9,900ポンド(≈190万円)のコスト(医療費等)
スペイン	孤独がもたらすコストは140億ユーロ(≈2.3兆円)(医療費・生産性等)
米国	高齢者の社会的孤立が7億ドル(≈9600億円)の公的医療保険支出
米国	孤独は雇用主に1540億ドル(≈22兆円)のコスト
豪州	孤独がヘルスケアにもたらすコストは年間27億豪ドル(≈2400億円)

(資料)WHO[2025] From Loneliness to Social Connections をもとに作成

(注)円換算は2025年6月の月平均相場を参考に算出

(図表4) 各国の孤独・孤立対策

英国	戦略・アクションプラン	2018年、2021年
英ウェールズ	戦略	2020年
英スコットランド	戦略	2023年
オランダ	アクションプラン	2022年
ドイツ	戦略	2023年
デンマーク	戦略・アクションプラン	2023年
フィンランド	アクションプラン・戦略	2024年、2025年
スウェーデン	戦略	2025年
アフリカ	公衆衛生総局長官勧告	2023年
日本	法律・重点計画	2023年、2024年

(資料)WHO[2025] From Loneliness to Social Connections をもとに作成

【ご照会先】調査部 副主任研究員 岡元 真希子 (okamoto.makiko@jri.co.jp, 080-2406-1838)

本資料は、関係機関を主な作成者としたものであり、明らかな虚偽を誘導するものではありません。本資料は、作成時点まで弊社が一般に信頼出来ると判断する資料に基づいて作成されたものであり、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、掲載の内容は、経済情勢等の変化により変更される可能性があります。本資料の信頼性に基づき起因して関係者及び第三者に損害が発生したとしても、執筆者、執筆にあつた者の責任及び賠償は一切責任を負いません。

• **孤独・孤立を“個人の問題”ではなく、公衆衛生上の課題と正式に位置づけ**

• 世界人口の15.8%が孤独を抱える

• 孤独・孤立は、病気、早死・精神疾患を増やし、社会全体の健康・経済に影響するリスク要因と明確化

• 英国、北欧、米国などが戦略・アクションプランを策定する中、**日本は唯一「法律」を制定**

→国として本格的な取り組みが進行中

参考URL <https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/research/pdf/15948.pdf>

# ひきこもり（社会的孤立）とは

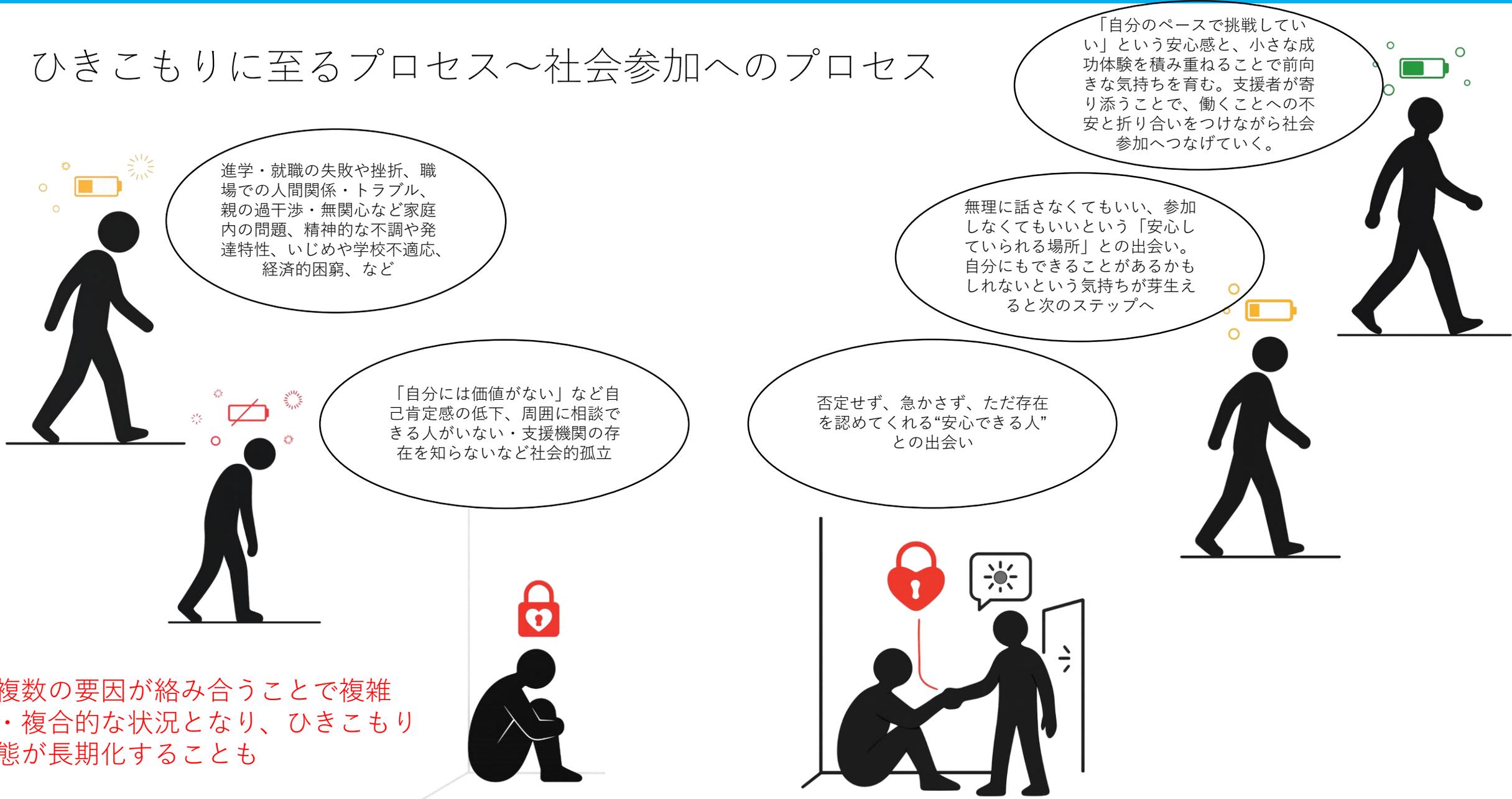
社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、様々な生活上の困難を抱え、家族を含む他者との交流が限定的（希薄）な状態であり、かつ、支援を必要とする本人及びその家族。

※その状態にある期間は問わない。

（ひきこもり支援ハンドブック 2025.03）



# ひきこもりに至るプロセス～社会参加へのプロセス



\* 複数の要因が絡み合うことで複雑的・複合的な状況となり、ひきこもり状態が長期化することも

# コムサロン21 支援の流れ



## ひきこもり期①

ひきこもり当事者や家族の方を対象とした相談窓口です。専門の相談員がお悩みをお伺いします。



## ひきこもり期②

居場所の開設や支援機関の情報発信を通じて、その方に応じた社会参加を支援します。



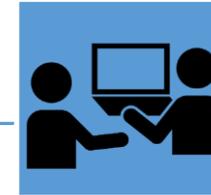
## 就労準備期①

15～49歳までの無業状態の方を対象に、就職に向けた相談やセミナーを実施、就職するまでサポートします。



## 就労準備期②

すぐに働く自信を持ってない方のために、ボランティア活動や社会参加体験を通して、働く基礎力を身につけます。



## 就労準備期③

企業で実際に働いてみることで、適正や働くためのトレーニングをします。協力企業はサポステに理解のある地元企業が中心です。



## 就職後

アルバイトから正社員になりたい、就職したけど悩みが出てきたなど就職後の相談も伺い、働き続けるためのサポートをします。

兵庫ひきこもり相談  
支援センター播磨ランチ

姫路市ひきこもり支  
援推進事業  
(愛称:ぷちたぷち)

ひめじ若者サポート  
ステーション

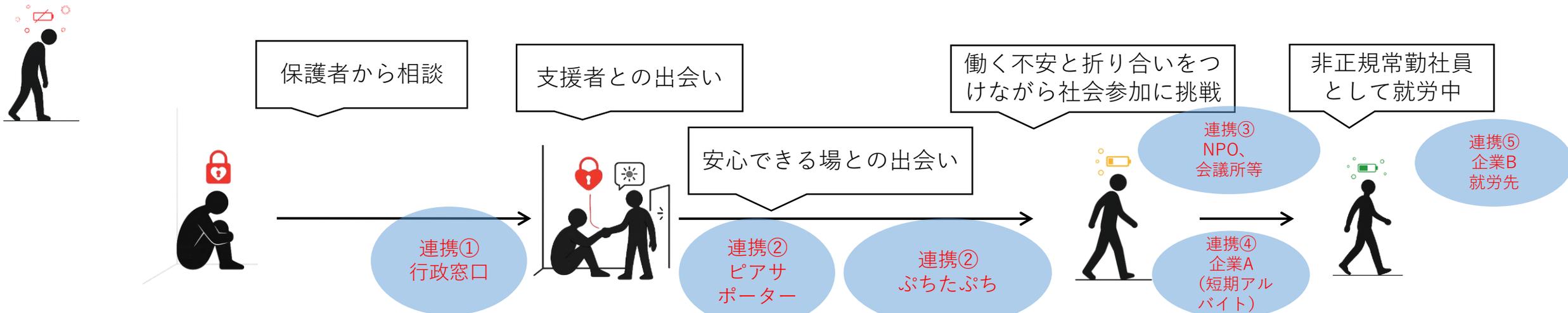
姫路市ジョブトレーニング

ひめじ若者サポートス  
テーション

ひめじ若者サポートス  
テーション

# 支援事例

30代男性 A市 10年以上ひきこもり



# 誰も取り残さない姫路市へ

- 私たちが関わっている方は、適切な職業マッチングと、適切な労働環境が整えば、企業や地域を支える人材になります。
  - 企業でも地域でも、一人ひとりに「出番」と「役割」…「自分がいても良い場所」
  - 「おはよう」「最近どう?」「困ったことがあったら声をかけてね」…安心
- 「ひきこもり」「働いていない若者」…特別な人ではなく同じ市民

ご参加の皆様も“声をかける人”